

PICK UP

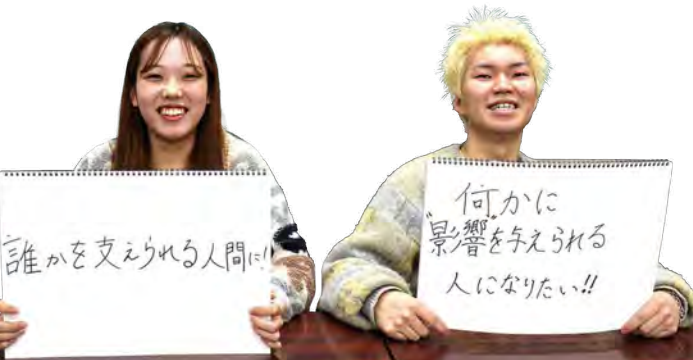


運動場でバスケットボールを持っていた一枚。当時を思い出しながら二人でシュートをしました(右)。森田さん率いる現NBA部(上)。年を重ねてもずっと一緒にバスケットを続けていきたい仲間たち。



現在は多目的室になっている元3年5組。教室の前の廊下の窓からよく外を眺めていた二人。

どんな大人になりたい？



な中、コロナ禍でもできることを見つけ、失った時間を埋めるかのように、その時その時を楽しみました。体育大会は学年ごとの開催でしたが、力を合わせたリレーなど、他のクラスに負けないようにクラス一丸となって取り組みました。

久々の再会の二人でしたが、当時の思い出話に花が咲き、上村先生と共に自然と話が弾み、笑顔が絶えない時間となりました。

現在は、思い描いている自分になるため、行きたい大学を目指している森田さん、大学に通いながらアルバイトをし、これからの将来の自分を探している山本さん。

今後も夢を見つげるために、今を全力で楽しみながら未来につなげます。



Uemura Akira
上村 彰先生

体育大会当日は、全身ピンクの衣装が定番だった上村先生。応援旗には上村先生の似顔絵が描かれ、愛されキャラだったのが伺えます。この年を機にこの衣装は封印されたようですが、今でも旗には、上村先生が描かれる伝統は残っています。



私たちのリアル

Morita Yutaro
森田 裕太郎

×

Yamamoto sachi
山本 彩智

校内めぐりをしながら、自分たちの卒業制作のモザイクアートを発見(左)。庭窪中学校創立70周年記念の作品にも参加し、タイルに漢字一文字を書きました(右)。



当 時山本さんは、真面目でやるべきことはきちんとやっていた生徒で、勉強とバドミントンとの両立に励んでいました。『つらい時期もあったけれど、何事もやり続けることが大事』ということを学び、いやなことから逃げない気持ちを持つことができたと言います。

森田さんは、NBA部(バスケットボールチーム)を個人的に立ち上げて、よく昼休みに遊んでいました。今でも森田さんを中心に当時の仲間と集まって練習をしています。

上村先生は、「彼は中心の発信者として、つながりを持ってまとめ、人を動かせる力を持っていましたね」と当時を振り返りました。

人懐っこさがあり、1人で楽しむのではなく、みんなで楽しい場をつくるのが上手で男女ともに仲がよかった3年5組。

中学3年生のときは、緊急事態宣言が発令され自宅待機となり、クラス替えの発表も学校では見られませんでした。分散登校を経て、全員が登校できたのは夏ごろからでしたが、そのように

二十歳 × インタビュー

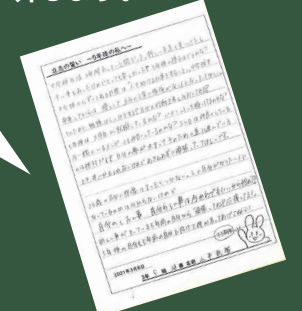


令和7年度に、守口市で二十歳を迎えるのは、男性622人、女性587人、合計1209人。今回、庭窪中学校卒業生の森田裕太郎さんと山本彩智さんにインタビュー。担任の先生であった上村彰先生も同席され、懐かしの母校での思い出話と共に、これからの自分たちのことを語ってくれました。

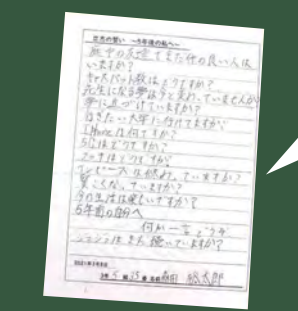
今を全力で楽しみ、未来にはばたけ

立志の誓い～ 5年後の私へ～

立志とは、将来の目標を定め、それを成し遂げようと志を立て、クラスの取り組みで、5年後の二十歳の自分に紹介します。



的を定めて、それを成し遂げることを意味します。当時中学3年生の2人が向けて書いたものを紹介します。



庭中の友だちでまだ仲のいい人はいますか？
先生になる夢は今と変わっていませんか？
夢に近づけていますか？
行きたい大学に行けてますか？
コロナはどうですか？
賢くなっていますか？
今の生活は楽しいですか？
(一部抜粋)



これを見て思ったのが、中学生らしく過去の自分がテキトーで呆れました。笑
コロナについては、この当時、いつ終わるのかという不安な気持ちでいっぱいでしたが、落ち着いた今、全員がマスクをし、緊急事態宣言が発令され出掛けられない期間があったなんて想像が付きません。中学時代の友達とは、今でもよく会います。大変恵まれているなとみんなに感謝しています。これからも、いろいろな縁を大事にしたいと思います。



2026.2.1
Moriguchi
守口市